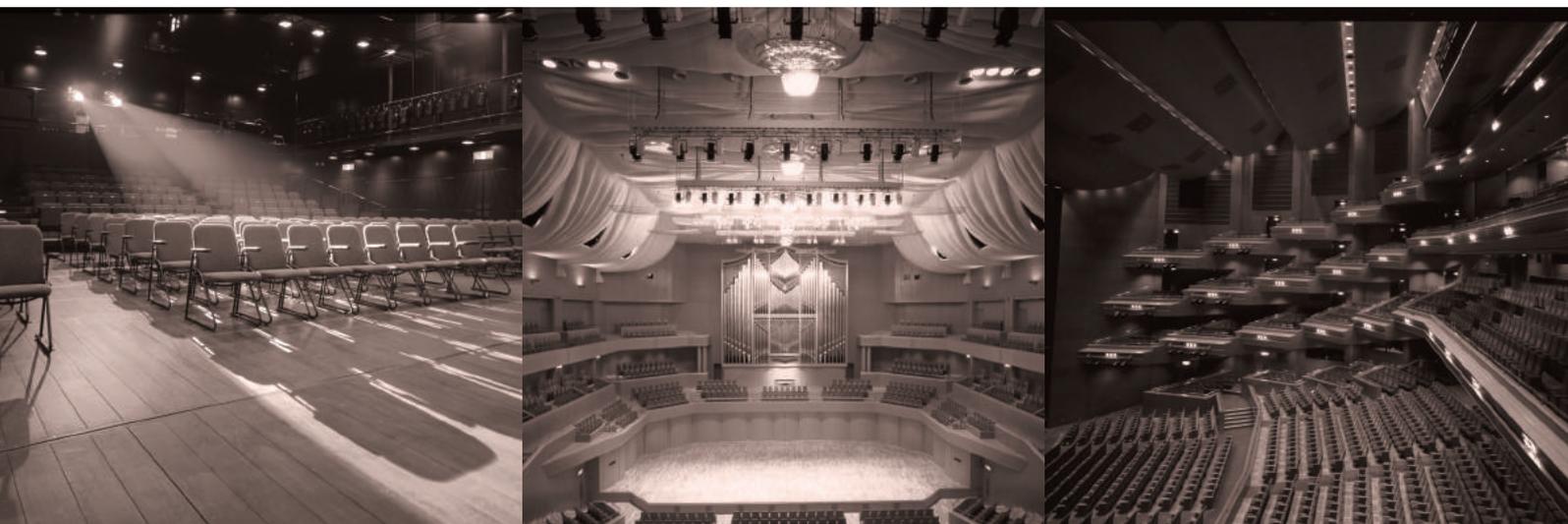


愛知県芸術劇場 平成27年度舞台芸術研修プログラム

舞台芸術人材養成ラボ 2015-2016 報告書

主催：愛知県芸術劇場

助成：平成27年度文化庁劇場・音楽堂等活性化事業、一般財団法人地域創造



はじめに

愛知県芸術劇場では、地域の舞台芸術の振興及び芸術環境の整備につなげるため、芸術活動を担う人材を養成する研修プログラムを実施しています。平成27年度（2015年度）からは、これまで散発的に開催してきた人材養成事業を見直し、「舞台芸術人材養成ラボ」として統括し、4つのプログラムを開催いたしました。対象者・目的別にまとめたことで研修全体が体系づけられ、各プログラムの内容がより鮮明となり、それぞれを充実させることができました。

今後も、引き続き地域のニーズ、課題を吸い上げ、毎年同時期に継続して開催することで、地域の拠点劇場としての役割を果たしていきたいと考えています。そうしてこの研修プログラムが、各市町村等の劇場職員や舞台技術者、芸術文化コーディネーター、アーティストなど、舞台芸術に関わる人たちの情報交換の場としても機能する場を目指していきます。

愛知県芸術劇場
館長 丹羽康雄

愛知県芸術劇場 舞台芸術人材養成ラボ

<p>① 職場体験プログラム P4・5 学生インターン (職場体験、大学等と連携したインターンシップの受入)</p> <p>募集期間 6月 実施期間 7月～8月(2日～3日間) 対 象 アートマネジメント、舞台技術、舞台芸術の振興等に関心のある学生。(大学2年生での受講を推奨) 内 容 劇場の仕事全般についての概要説明や主催公演の現場体験。</p>	<p>② 実践実習プログラム P6-9 劇場インターン</p> <p>募集期間 5月～6月 実施期間 1年目:6月～12月(25日間程度) 2年目:通年(10日間程度) 対 象 舞台芸術に関わる仕事に就きたいと考えている学生(大学2年生・3年生での受講を推奨)や、そうした仕事を始めてまもない若手制作者・技術者。 内 容 企画制作系及び舞台技術系の2コースで実施。企画制作・舞台技術の基礎から学び、実践能力の習得と向上を目指す長期インターン。2年継続しての受講を推奨。</p>
<p>③ 技能習熟プログラム P10-13 劇場職員セミナー</p> <p>募集期間 12月 実施期間 1月頃(2日～3日間) 対 象 公立劇場等の中堅職員(4年目以上の勤務者を想定)等。 内 容 職員の情報収集やスキルアップなど専門性の向上を図る。舞台技術、広報・アートマネジメントをテーマとした講演会、グループ討議等。</p>	<p>④ 創造制作プログラム P14・15 舞台芸術創造セミナー</p> <p>募集期間 12月～1月 実施期間 1月～3月頃(2日～5日間) 対 象 アーティスト、公演制作者や芸術文化コーディネーター、劇場職員等公演そのものに関わる者。 内 容 新しい作品創造のために知っておくべき舞台技術等について学ぶ。</p>

2015-2016 実施概要

プログラム	日程、会場	コース別詳細								
		コース	講師	日程	日数	参加人数(人)				
① 職場体験プログラム 学生インターン	2015.7/21～ 8/27 (うち、延べ8日) 愛知県芸術劇場 コンサートホール ほか	コース1	丹羽 康雄(愛知県芸術劇場館長) ほか 当劇場職員	7/21・27 28	3日	7	19			
		コース2		7/21 8/26・27	3日	6				
		愛知県立大学留学生インターンシップの 受入		8/6・7 もしくは8/6・8	2日	6				
② 実践実習プログラム 劇場インターン	2015.6/3～ 2016.3/27 (うち、延べ113日) 愛知県芸術劇場 小ホール ほか	1 年 目	藤井 明子(愛知県芸術劇場) ほか 当劇場職員	企画制作志望コース	6/17～ 12/12	59日、うち 22日～38日 参加	4	16		
				舞台技術志望コース			3			
				【特別枠】公演制作実習コース			7/23～ 10/7		18日、うち 8日～10日参加	2
		2 年 目		企画制作志望コース	6/3～3/27	36日、うち 平均10日 参加	3			
				舞台技術志望コース			4			
③ 技能習熟プログラム 劇場職員 セミナー	2016.1/6～8 (3日) アートスペースA ほか	1	基調講演「教育、福祉、まちづくり、観光、産業 等、幅広い分野と連携する文化芸術振興とは」	柴田 英紀 (全国公立文化施設協会事務局参与)	1/6	1日	47	496		
		2	広報「紙」が“生き残る”ために	長野 隆人 (いわき芸術文化交流館アリオス) ほか			45			
		3	避難訓練コンサート	出演：名古屋フィルハーモニー交響楽団	1/7	1日	176			
		4	防災についての パネルディスカッション	浅野 芳夫(愛知県芸術劇場) ほか			63			
		5	舞台改修についての パネルディスカッション	丹羽 功(日本特殊陶業市民会館) ほか	1/8	1日	18			
		6	役者・歌手目線からの 劇場技術の人っていったい?!	山口 良一(俳優・タレント) ほか			29			
		7	欧州で高まるコンサート配信の取り組み ～トーンマイスターについて～	長江 和哉 (名古屋芸術大学音楽学部准教授)			13			
		8	創客のためのチケットティング	坂崎 裕二 (可児市文化創造センターala) ほか			38			
		9	劇場の接客研修講座	宮崎 智美 (サントリーパブリシティサービス株式会社)			26			
		10	有料?無料? 会員制度のメリット/デメリット	山川 愛(かすがい市民文化財団) ほか			41			
④ 創造制作プログラム 舞台芸術 創造セミナー	2016.1/16～ 2/19 (うち、延べ4日) 愛知県芸術劇場 大リハーサル室 ほか	1	照明と映像について	藤本 隆行(ディレクター・照明家)、 小西 小多郎(映像ディレクター)			1/16・17	2日	24	43
		2	舞台美術と衣裳について	杉山 至(舞台美術家)、 堂本 教子(衣裳デザイナー)			2/18・19	2日	19	
						合計人数	574			

①職場体験プログラム

学生インターン

職場体験、大学等と連携したインターンシップの受入



日 程 2015/7/21~8/27 うち 3日間×2コース

会 場 愛知県芸術劇場コンサートホール ほか

講 師 丹羽 康雄（愛知県芸術劇場館長）ほか、当劇場職員

研修内容 1日目：講義（劇場の仕事について、自主事業・広報・舞台技術について等）、施設見学

2・3日目：自主事業制作現場実習（THE オルガンDAY、劇場探検ツアー）

参加者 大学生8人（愛知大学、愛知県立芸術大学、静岡文化芸術大学、中京大学、名古屋大学、名古屋音楽大学）、大学院生1人（愛知県立芸術大学大学院）、高校生4人（名古屋経済大学市邨高等学校）

【特別枠】愛知県立大学留学生インターンシップの受入

日 程 2015/8/6~8 うち 2日間×2回

会 場 愛知県芸術劇場小ホール ほか

講 師 丹羽 康雄（愛知県芸術劇場館長）ほか、当劇場職員

研修内容 1日目：講義（劇場の仕事について、自主事業について等）、施設見学

2日目：自主事業制作現場実習（秘密のショートケーキ）

参加者 6人



②実践実習プログラム

劇場インターン ■1年目

対 象 舞台芸術に関わる仕事に就きたいと考えている学生や、そうした仕事を始めてまもない若手制作者・技術者。

期間及び研修内容

日程	企画制作志望コース	舞台技術志望コース
2015/ 6/17、6/23、6/29	①劇場研修（講義）：愛知県芸術劇場での仕事について、自主事業・広報・舞台技術について、施設見学	
7/4～8/15	②制作実習： 第14回AAF戯曲賞受賞公演『茨姫』の稽古場見学、受付実習など（左記のうち6日以上）	②舞台技術実務実習： 図面読み・描き実習、『茨姫』の舞台管理業務見学、仕込み補助実習など（左記のうち6日以上）
6/24～10/13	③現場体験：ダンス、音楽、演劇などの公演を見学、受付体験など（左記のうち5日以上）	③現場体験：ダンス、音楽、演劇などの公演を見学、仕込み・バラシ体験など（左記のうち9日以上）
9/24～12/5	④企画実習：プレゼンテーション、AAF戯曲賞審査会関連イベントの企画立案、制作実施（左記のうち8日以上）	
12/12	⑤振り返り	

*受講生は各人トータルで22日～38日参加

会 場 愛知県芸術劇場小ホール ほか
講 師 藤井 明子（当劇場シニアプロデューサー）、
 世古口 善徳（当劇場シニアエンジニア）、
 山本 麦子（当劇場プロデューサー）ほか、当劇場職員

参 加 者 大学生7人（愛知県立芸術大学、愛知淑徳大学、金城学院大学、椋山女学園大学、名古屋市立大学）

【特別枠】公演制作実習コース

対 象 1年目の劇場インターンを受講する意欲・基礎的な知識はあるが、遠方在住等のため規定日数の参加が見込めない者。

日 程 2015/7/23～10/7 うち 8～10日

会 場 愛知県芸術劇場小ホール ほか

研修内容 公演の仕込み・本番・撤収日の制作・運営の実施体験。

講 師 唐津 絵理（当劇場シニアプロデューサー）、
 水野 学（当劇場シニアプロデューサー）ほか、当劇場職員

参 加 者 2人（近畿大学、金城学院大学）



レポートより

- いろいろな仕事を体験させていただいたが、企画実習のプレゼンテーションが特に印象的だった。自分たちが考えた案を人に伝えることの難しさを実感した。
（企画制作志望コース、大学3年生）
- 『茨姫』公演では、一つの作品が出来上がるまでの過程を間近で見ることができ、作品が日々進化していく姿に感動した。「お客様を笑顔にする出演者を笑顔にさせる」のも、裏方さんの仕事なのだと感じた。
（舞台技術志望コース、大学3年生）
- 舞台に関わる仕事に関する視野が広がったことが、大きな収穫だった。舞台を組み上げる大道具の仕事に最も関心があったが、舞台美術やそうした会社の営業などにも興味が広がり、今後それらの職業についての情報を集めながら将来につなげたい。
（舞台技術志望コース、大学3年生）



②実践実習プログラム

劇場インターン ■2年目



対 象 1年目の受講修了者
日 程 2015/6/3~2016/3/27 うち 平均10日間
会 場 愛知県芸術劇場小ホール ほか
講 師 藤井 明子 (当劇場シニアプロデューサー)、
世古口 善徳 (当劇場シニアエンジニア)、
山本 麦子 (当劇場プロデューサー) ほか、当劇場職員

研修内容 企画制作志望コース、舞台技術志望コースともに、1年目で学んだ基礎的な知識・技術をもとに公演現場での実地体験を重ねることにより、より実践的・専門的な知識・技術を体得する、報酬型インターンシップ。小ホールの「ミニセレ」シリーズ公演を中心に、演劇・ダンス・音楽など様々な公演に劇場スタッフとして関わった。

研修対象公演 地点『かもめ』、ニブロール『リアルリアリティ』、中川賢一現代音楽
レクチャー&コンサート、コンフェティ劇団『秘密のショートケーキ』
第14回AAF戯曲賞受賞公演『茨姫』、範宙遊泳『少女Xの人生で一番楽しい数時間』、第15回AAF戯曲賞公開審査会、東京現音計画
#06、舞台芸術創造セミナー、N響公開レッスン、サウンドパフォーマンス・プラットフォーム2016、マレピトの会『長崎を上演する』

参加者 大学生7人 (愛知大学、愛知県立芸術大学、金城学院大学、
椋山女学園大学)

レポートより

- 公演制作に関わる仕事だけでなく舞台技術の仕事も含めて劇場での仕事が具体的にわかり、とても参考になった。2年目は有償となったことでより責任感を感じて取り組んだ。貴重な経験だったと思う。
(企画制作志望コース、大学3年生)
- 一つの作品を創るために各スタッフが細かな仕事を追求しているところが素晴らしいと感じた。様々なジャンルの作品に出会えたことはもちろん、各カンパニーの現場の雰囲気の違いを感じることができ、視野が広がった。様々な人とつながりを作ることができ、今後の進路を考える上で大変参考になった。
(舞台技術志望コース、大学3年生)



③技能習熟プログラム

劇場職員セミナー

- 対 象** 公立劇場等の中堅職員(4年目以上の勤務者を想定) 等。
- 日 程** 2016/1/6~8
- 会 場** 愛知芸術文化センターアートスペースA (ほか)
- 参 加 者** 496人(名古屋市文化振興事業団・青少年文化センター、長久手市文化の家、パティオ池鯉鮒(知立市文化会館)、碧南市芸術文化ホール、岡崎市民会館、岡崎市シビックセンター、かすがい市民文化財団、一宮市民会館、豊川市文化会館、宗次ホール、三井住友海上しらかわホール始め愛知県内の劇場職員、サラマンカホール、大垣市文化事業団、パロー文化ホール(多治見市文化会館) 始め岐阜県内の劇場職員、三重県文化会館、伊勢市教育委員会事務局文化振興課、伊賀市文化都市協会、黒部市国際文化センターコラーレ、つくば文化振興財団、宮崎県立芸術劇場、調布市せんがわ劇場、ほか)

■研修内容 ◎はコーディネーター

①基調講演「教育、福祉、まちづくり、観光、産業等、幅広い分野と連携する文化芸術振興とは」

講 師 柴田 英紀(全国公立文化施設協会事務局参与・アドバイザー、日本芸術文化振興会プログラムオフィサー(演劇)、文化審議会第13期文化政策部会委員)

研修内容 文化芸術の振興の基本方針を押さえた上で、社会的便益と社会的包摂の相違点を解説。社会的包摂の先進国であるイギリスを含め、国内外の事例を紹介しながら、文化芸術振興の基礎を確認し直した。



②広報「紙」が“生き残る”ために

パネラー ◎長野 隆人(いわき芸術文化交流館アリオス 広報グループ チーフ)
生田 創(長久手市文化の家 事業係長)

研修内容 受講者対象に事前に行ったアンケートの結果をもとに、悩みや疑問点を拾い上げ、講師がコメントや考え方を提案する形で、講義と討論を重ねた。また講師が担当した広報誌の大きなリニューアルについて事例紹介し、「紙」のメディアの役割について考察した。



③避難訓練コンサート（受付・説明後に、コンサートホールにて）

出演 名古屋フィルハーモニー交響楽団

研修内容 名フィルのコンサート本番中に出火したという想定で、劇場職員や守衛、客席案内スタッフに加えて、主催者、建物内の他施設職員ほかを含め、総がかりで来場者及び出演者たちを屋外に避難させる訓練を行った。



④防災についてのパネルディスカッション

パネラー ◎浅野 芳夫（愛知県芸術劇場 舞台技術グループ チーフマネージャー）

永井 健一（神奈川県民ホール 副館長）

甘粕 幸恵（東京エレクトロンホール宮城 総務管理係長）

後藤 陽（愛知県芸術劇場 総務グループ スタッフ）

研修内容 避難訓練コンサート後、来場者役を務めた他劇場の職員を含めて、防災についてのディスカッションを行った。東日本大震災を経験した劇場からパネラーを招き、体験談や防災の取り組みを報告してもらい、その後はグループに分かれて課題等を話し合った。



⑤舞台改修についてのパネルディスカッション

パネラー ◎丹羽 功（日本特殊陶業市民会館 管理課長）

本杉 省三（日本大学 理工学部建築学科 教授）

高瀬 洋（穂の国とよはし芸術劇場プラット 舞台チーフ）

初山 勝人（長久手市文化の家 事務局長）

研修内容 舞台改修について、日本大学教授 本杉省三氏から特定天井を含む改修の概要についての講義、その後県内ホール関係者から主に改修までのプロセスについて報告があった。そのあと会場からの質問に答えるなど、改修という劇場にとって大きな課題の情報共有を行った。



③技能習熟プログラム

⑥役者・歌手目線からの劇場技術の人っていったい?!

出演 山口 良一 (俳優・タレント、劇団東京ヴォードヴィルショー)
浅野 芳夫 (愛知県芸術劇場 舞台技術グループ チーフマネージャー)

研修内容 俳優の山口良一氏を招き、上演者・出演者側から劇場やそのスタッフに対するホンネの意見を、笑いを交えたトークセッションとして開催した。



⑦欧州で高まるコンサート配信の取り組み～トーンマイスターについて～

講師 長江 和哉 (名古屋芸術大学 音楽学部音楽文化創造学科 准教授)

研修内容 コンサートの様子を世界中に向けて配信する取り組みについて、最新の情報と映像を交え詳しく紹介した。



⑧創客のためのチケットティング

パネラー ◎坂崎 裕二 (可児市文化創造センターala 顧客コミュニケーション室 係長)
濱田 正和 (新日本フィルハーモニー交響楽団 営業部長)
西田 充晴 (大垣市文化事業団 総務係長)

研修内容 パネラーからそれぞれの創客の取り組みについて報告。企業協賛を通じたあしながプロジェクト、グループ割引などの取り組み等、チケットの割引・招待サービスを通じた「気軽に来ることができる劇場」「コミュニケーションツールとしての公演」のイメージ作りや、新日本フィルが墨田区と共同で行っているアウトリーチプログラムやアンケートによるマーケティング調査の結果なども紹介された。



⑨ 劇場の接客研修講座

講師 宮崎 智美 (サントリーパブリシティサービス株式会社ゲストリレーション事業関西グループ主任)

研修内容 笑顔やお辞儀の仕方から、チケットのもぎり方、車いすのお客様の案内など、お客様が最初に接する劇場受付の基本を改めて学んだ研修。具体的な事例を交え、丁寧な講義・解説と、簡単な実習が行われた。



⑩ 有料？ 無料？ 会員制度のメリット／デメリット

パネラー ◎山川 愛 (かすがい市民文化財団 広報・コミュニケーショングループ マネージャー)

坂内 佳子 (りゅーとぴあ 事業企画部 広報営業課長)

安田 江 (兵庫県芸術文化センター 事業部 プロデューサー)

研修内容 会員制度について、有料／無料、それぞれを実施しているパネラーの劇場の実情を比較しながら紹介。忌憚のない意見が飛び交う、本音での討議が行われた。



愛公文セミナー

愛知県芸術劇場は、愛知県内の公立文化施設が加盟する愛知県公立文化施設協議会の会長と事務局を務め、年間3回の講座を開催している。

対象 愛知県公立文化施設協議会加盟館の新規採用職員、異動により劇場勤務となった者 等。

日程及び研修内容

- I 2015/ 6 /19 ①舞台業務の基礎知識 ②自主文化事業の制作実務
- II 2015/ 8 /11 ③文化政策を取り巻く環境(ホールの仕事とは?) ④施設の管理と運営
- III 2015/10/27 ⑤リスクマネジメント ⑥自主文化事業の企画立案

会場 愛知芸術文化センターアートスペースEF、G

講師 浅野 芳夫 (愛知県芸術劇場)、品川 佳代 (パティオ池鯉鮒 [知立市文化会館])、丹羽 功 (日本特殊陶業市民会館)、林 健次郎 (愛知県芸術劇場)、初山 勝人 (長久手市文化の家)、藪田 哲也 (幸田町民会館)、米本 一成 (春日井市民会館)

参加者 I 39人 II 48人 III 36人

(名古屋市公会堂、名古屋能楽堂、豊田市コンサートホール・豊田市能楽堂、碧南市芸術文化ホール、岡崎市民会館、かすがい市民文化財団、一宮市民会館、豊川市文化会館、新城地域文化広場 ほか)



舞台芸術創造セミナー

アーティストと制作者のための舞台技術講座

対 象 新しい舞台芸術作品の創造に関心のある、アーティスト・制作者・劇場・音楽堂等に勤務する職員・大学等にて舞台芸術を学ぶ学生等。

(1) 照明と映像について

日 時 2016/1/16、17

会 場 愛知県芸術劇場大リハーサル室

講 師 藤本 隆行 (ディレクター・照明家)

小西 小多郎 (映像ディレクター)

研修内容 照明と映像について、両者を全く同等にとらえて一つの作品の中で有機的に機能させるためにコンピュータを使う方法を紹介。講師が携わった舞台公演の事例紹介に始まり、その意義と有効性の解説、そして初歩的なプログラム言語、ソフトを使用してのオペレーション実習までを行った。

参加者 24人 (高知県立美術館職員、瀬戸市文化センター職員、ダンサー、音楽家、作曲家、パフォーマー、能楽師、名古屋芸術大学学生、愛知大学学生、ほか)

アンケートより

- 基礎的な話から応用、実践まで、舞台照明・映像がどうオペレーションされているのか、知ることができてよかったです。(20代、男性、学生)
- それぞれが実習できるところまで行けなかったが、自分が知りたかったテクニカルな課題についてわかりました。概念と実制作のバランスがよいプログラムでした。(20代、男性)





(2) 舞台美術と衣裳について

会場 愛知県芸術劇場大リハーサル室 ほか

講師 杉山 至 (舞台美術家)

堂本 教子 (衣裳デザイナー)

研修内容 舞台美術と衣裳を併せて空間の視覚的デザインと捉え、1日目は、聴覚で得たイメージから視覚、触覚のイメージとして表現してみる実習 (共感覚について)、2日目は原風景から発想するというテーマで、各自のスケッチをもとにグループに分かれてそれらをコラージュさせ一つの風景模型を製作する実習を行った。

参加者 19人 (かすがい市民文化財団職員、北九州芸術劇場職員、舞台会社勤務者、劇団員、ダンサー、画家、パフォーマー、愛知県立芸術大学学生、名古屋市立大学学生、京都造形芸術大学学生、ほか)

アンケートより

- 自分の創造力を知る良い機会になりました。みんなで協力して一つのものをつくるのは、とても面白く感じました。(40代、男性、舞台技術者)
- 新鮮でした。舞台美術を学べる機会は少ないので、貴重な経験になりました。(20代、女性、学生)



**愛知県芸術劇場 平成 27 年度舞台芸術研修プログラム
舞台芸術人材養成ラボ 2015-2016 報告書**

発行：愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）

2016.3.25

〒461-8525 名古屋市東区東桜 1-13-2

TEL 052-971-5609 Email event@aaf.or.jp

デザイン・印刷：株式会社日総研印刷